

「ネパールの紛争とジェンダー・ジャスティスを考える:紛争で夫を亡くした女性への支援を例に」

講師: 与那嶺涼子さん(青年海外協力隊よりネパールの女性 NGO、WHR に派遣)

背景説明: 田中雅子(アジア女性資料センター運営委員)

ネパールは共産党毛沢東主義派と当時の政府の間の人民戦争で 2006 年まで約 10 年間に戦状態にありました。2008 年 4 月に制憲議会選挙が開かれ、連邦共和制への移行を果たしたものの、和平プロセスの遅延、中でも正義の問題が軽視される中、紛争犠牲者への支援は行きわたらず、和解も進んでいません。

紛争中、警察、国軍、人民解放軍の兵士が戦闘によって命を失ったほか、民間人も犠牲になり、夫を失う女性が急増しました。世俗国家となった後もヒンドゥ教の影響が残るネパールでは、寡婦は差別の対象となり、夫の家族から制裁を加えられることさえあります。子どもの養育責任をひとりで負う女性たちの多くは、初めて自分で生活の糧を得ねばならない境遇となり厳しい生活を強いられています。

Women for Human Rights – Single Women Group(WHR)は、配偶者と死別・離別した女性たちの当事者団体として、紛争で夫を亡くした女性の支援を行っています。紛争犠牲者の中には、今も行方のわからない人が千人以上います。こうした女性たちのために WHR が実施している Rahaat(癒し)という事業に関った与那嶺涼子さんが、生活再建の支援やカウンセリングで出会った女性たちの現状、また現在のネパールで最も力強い女性運動を展開する WHR の経験について話します。

★人権を求める女性たち—シングル女性の会 Women for Human Rights – Single Women Group(WHR)

湾岸戦争に従軍した軍医の夫を亡くしたりリ・タバさんが 1994 年に設立。夫を亡くした女性たちへのピア・カウンセリングや収入向上、子どもの就学支援のほか、和平やシングル女性の政治参加についてアドボカシー活動を行う。

<http://www.whr.org.np/>

★与那嶺涼子さん

沖縄県出身。イギリスで「ジェンダーと開発」を学んだ後、おきなわ女性財団勤務を経て名城大学、沖縄大学非常勤講師として英語とジェンダー学を担当。県男女共同参画審議会委員として行政の男女共同参画事業にも関わる。2008 年より青年海外協力隊員としてネパールで活動。WHR では、Rahaat のプロジェクト責任者、また国連や国際機関や NGO からなる「ジェンダーとトランジショナルジャスティス・ネットワーク」窓口を務めた。

日時: 2010 年 1 月 13 日(水)午後 6 時半開場、7 時開演

場所: 渋谷区女性センター・アイリス(渋谷区渋谷 1-17-7、全国婦人会館 5~7 階)

電話: 03-5466-3956

<http://navitokyo.com/03-5466-3956/>

主催: アジア女性資料センター

協力: アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)

参加費: 一般 1000 円、会員 700 円

お問合せはアジア女性資料センターまで

TEL: 03-3780-5245 FAX: 03-3463-9752

E-mail: ajwrc@ajwrc.org <http://www.ajwrc.org>